

## 9 行列の階数と線形独立性

以下で,  $K$  は実数全体  $\mathbb{R}$  または複素数全体  $\mathbb{C}$  とする.

演習 9.1 前回の演習 8.3 の式 (1), (2) を今度は教科書の定理 2.14 を用いて示せ:

$$(1) \operatorname{rank} \begin{pmatrix} A & O \\ O & B \end{pmatrix} = \operatorname{rank} A + \operatorname{rank} B$$

$$(2) \operatorname{rank} \begin{pmatrix} A & C \\ O & B \end{pmatrix} \geq \operatorname{rank} A + \operatorname{rank} B$$

演習 9.2  $n$  個の  $n$  項縦ベクトル  $\mathbf{x}_1, \dots, \mathbf{x}_n \in K^n$  について, 次の (a), (b), (c) は同値であることを示せ:

(a)  $\mathbf{x}_1, \dots, \mathbf{x}_n$  は線形独立.

(b)  $\mathbf{x}_1, \dots, \mathbf{x}_n$  を並べて作った  $n$  次正方行列  $A = (\mathbf{x}_1, \dots, \mathbf{x}_n)$  は正則.

(c)  $\mathbf{x}_1, \dots, \mathbf{x}_n$  は  $K^n$  を張る.

[ヒント] ((a)  $\Leftrightarrow$  (b)) は教科書の定理 2.14 と系 2.12 により得られる. ((b)  $\Rightarrow$  (c)) 正則行列ならば, 列基本変形のみを繰り返して単位行列にできるはず. ((c)  $\Rightarrow$  (b)) 逆に (c) が成り立つなら,  $\mathbf{e}_1, \dots, \mathbf{e}_n$  が  $\mathbf{x}_1, \dots, \mathbf{x}_n$  の線形結合で書けるはず.

演習 9.3 (1)  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_m \end{pmatrix}$  を  $m$  項縦ベクトル,  $\mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ \vdots \\ y_n \end{pmatrix}$  を  $n$  項縦ベクトルとすると,

$$A = \mathbf{x}^t \mathbf{y} = \begin{pmatrix} x_1 y_1 & \cdots & x_1 y_n \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ x_m y_1 & \cdots & x_m y_n \end{pmatrix}$$

は  $m \times n$  行列である.  $\mathbf{x} \neq \mathbf{0}$ ,  $\mathbf{y} \neq \mathbf{0}$  のとき,  $\operatorname{rank} A = 1$  となることを示せ.

(2) 逆に,  $A$  をある  $m \times n$  行列とすると, もし  $\operatorname{rank} A = 1$  ならば, ある  $m$  項縦ベクトル  $\mathbf{x}$  と  $n$  項縦ベクトル  $\mathbf{y}$  が存在して  $A = \mathbf{x}^t \mathbf{y}$  と書けることを示せ.

時間が余ったら, 次も考えてみてください.

演習 9.4 一般に,  $A$  を  $m \times n$  行列,  $\operatorname{rank} A = r$  とするとき, ある  $m \times r$  行列  $X$  と  $n \times r$  行列  $Y$  が存在して,  $A = XY$  と書けることを示せ.